



また、ピスコ・エルキへの旅では、草木に乏しい広大な荒野や褐色の山々が永遠と続く道の先で、砂土の山肌を敷き巡らせたホースの小さな穴から一本一本の苗に水を注ぎブドウを育てているピスコ産地の村を目的の当たりにし、自然の中で人が生きるための水や緑の貴重さと、砂山をピスコ産地に変えて生きる人のたくましさを感じました。そして何といつても、このチリ訪問で前回に引き続きあらためて学ばせていただいたことは、もてなしの心についてです。空港への出迎え、ホームステイ先の提供、毎日の道場への送り迎え、道場での朝食や昼食の提供、ディナーやパーティーへの招待、観光の案内サポート、送別時の贈り物等々、チリの方々の非常に親身で温かいもてなしを受け、私も日本人として日本でそのようなもてなしをしないと強く思いました。

まとまりのない文章となつてしまいましたが、終わりに、すばらしいセミナーをご教示くださった武田師範、チリ現地での準備や進行を指揮してくださったチリ白山道場のマヌエル先生、奥様のマイテさん、前回に続きホームステイを受け



入れてくださったニコラスさん、クラウディアさん、ピスコ・エルキへのロングドライブの旅をエスコートしてくださったロドリゴさん、ディナーにご招待してくださったラウルさんと奥様のマルセラさん、ペロニカさんをはじめ、すべての方々に深く感謝いたします。また、旅程の手配・まとめをしてくださった大雄先生をはじめ、日本から一緒に参加された壺内さん、上田さん、矢島さん、金さん、毛利さん、玲欧馬君に、楽しい旅程にご一緒させていただけましたことを深く感謝いたします。ありがとうございました。

鶴岡八幡宮研修道場合気道科

藤田 玲欧馬

11月5日から2週間、武田師範、大雄さんたちとチリに行ってきました。はじめの1週間は稽古+セミナー、残りの1週間は観光をメインにしてみました。稽古は、現地の方の家にホームステイさせて頂き、それぞれ道場に通うというスタイルでした。稽古を毎日続けて行ったこと

は今まで一度も無かったもので、はじめは少し苦しかったですが、いざやってみるとあつというまに過ぎた1週間でした。と言いつつも僕は最後のセミナー日に体調を崩し、普段稽古が足りないのがバレてしまいました。

現地の人々はとても優しく心の広い方々で、稽古の時もパーティーやホームステイ先でも笑顔で私たちに接してくれました。稽古中はとても真剣に師範のお話を聞き、師範もおっしゃっていました。ある意味日本人以上に、*politeness*がすごくかたよりに思います。体力もとてもあり、稽古後のパーティーも踊りまくっていました。

チリはスペイン語を話すいわゆるラテン系の文化です。南米大陸は今回が初めてですが、ラテンの文化にここまで深く携わったのも初めてで、様々な面で驚かされました。たくさん野良犬が道路を闊歩していたり、赤土の大地が広がる中サポテンが自生していたり、今までテレビでしか見たことのない光景はどれもとても興味深いものばかりでした。僕が興味を覚えたことの1つに人々の交流方法が挙げられます。彼らの交流スタイルは肌の接触を交えた挨拶から別れまで日本よりも距離の近いやり方です。合気道もある意味肌と肌との接触をします。五感のひとつ、「触感」は人に安心感を与え、感性豊かな人間をつくる。そう感じました。ラテンの文化と、合気道、無理やりかもしませんが、ここは互いに共通している部分かもしれないと思いました。

最後になりましたが、一緒に旅をするなかで、様々な人々にお世話になりました。中でも矢島先生、金さん、毛利さんは母のように良くしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。僕はチリの後に単身ブラジルに行ったのですが、その際大雄さんにも大変助けいただきました。武田師範をはじめ、大雄さん、矢島先生、金さん、毛利さん、壺内先生、上田さん、高柳さん、本場にありがとうございました。合気道を通して日本だけでなく世界の様々な人々と交流できたことは、僕の誇りです。合気道やってよかった。

